

|                     |                     |                     |             |              |                     |                     |
|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|--------------|---------------------|---------------------|
| 令和 8 年<br>2026 年    |                     |                     |             |              |                     |                     |
| 日                   | 月                   | 火                   | 水           | 木            | 金                   | 土                   |
|                     |                     |                     |             |              |                     | 1 赤口<br>八朔 ひつじ      |
| 2 先勝<br>さる          | 3 友引<br>一粒万倍日<br>とり | 4 先負<br>いぬ          | 5 仏滅<br>る   | 6 大安<br>ね    | 7 赤口<br>立秋<br>うし    | 8 先勝<br>とら          |
| 9 友引<br>う           | 10 先負<br>たつ         | 11 仏滅<br>山の日<br>み   | 12 大安<br>うま | 13 先勝<br>ひつじ | 14 友引<br>さる         | 15 先負<br>とり         |
| 16 仏滅<br>いぬ         | 17 大安<br>三りんぼう<br>る | 18 赤口<br>一粒万倍日<br>ね | 19 先勝<br>うし | 20 友引<br>とら  | 21 先負<br>三りんぼう<br>う | 22 仏滅<br>たつ         |
| 23 大安<br>処暑<br>み    | 24 赤口<br>うま         | 25 先勝<br>ひつじ        | 26 友引<br>さる | 27 先負<br>とり  | 28 仏滅<br>いぬ         | 29 大安<br>三りんぼう<br>る |
| 30 赤口<br>一粒万倍日<br>ね | 31 先勝<br>二百十日<br>うし |                     |             |              |                     |                     |

# 葉月

〔はづき〕 令和 8 年 8 月

「月見草」「観月」「桂月」とも言われ、古くから月に生えていると信じられていた桂の葉の月という意味があります。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

## 神は見徹しなり

真野時綱・神家常談

### 今月のことば

神は見徹しなり

真野時綱・神家常談

人の世の道徳は、人と人との秩序を保つために必要である。ここでは眼に見える事柄だけが問題とされる。これに対し信仰の秩序は、神と人との関係に於いて存する。ここでは人は見てみなくとも、神だけは見通してゐられることえを知り、独りを慎むことに身の処し方がある。

神家常談には「神明の照鑑といふ心を、片部の俗語には、神は見徹なりといへり。若し独も不実の者ありて、不信の言を吐くとき、かたへの人、神は見通なり」といへば、いかなる邪気の者も恐懼の心忽ち面目に著る事あり」としてゐる一節をとつたものである。

(神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋)

## 季節のまつり

### 八朔 田の実りの節供

八朔とは八月朔日の略で、旧暦の八月一日です。この頃、早稲の穂が実るので、農家の間で初穂を恩人などに贈る風習が古くからありました。このことから、「田の実りの節供」とも言われ、この「たのみ」を「頼み」にかけて、武家や公家の間でも、日頃お世話になっていた(頼み合っている)人、その恩を感謝する意味で贈り物をするようになりました。

### 盆踊 盆に戻った祖霊への供養

お盆の時期になると全国の至る所で盆踊りが行われます。もともとは、年に一度、文字通りお盆のときに、この世に戻ってきた祖霊を供養するために踊ることを意味します。

「盆踊り」は、古代日本で神様が降りてきたところを中心に、輪を作って踊ったなごりと言われていたが、鎌倉時代、時宗の開祖・一遍上人が広めた念仏踊りのように列を組んで歩きながら踊る「行列踊り」などもあります。その代表的なものが「阿波踊り」です。



## 盆踊り歌とは？

ふるさとの盆踊り歌には、その土地に長い間歌い継がれたものが多くあります。その歌は、本来は盆を迎えた祖霊を慰め、またこれを送るためであったと考えられますが、今はその趣旨は精霊踊りや念仏踊りの歌にしか残っていません。多くは庶民の娯楽化した歌詞や、口説きの類で、踊る者と歌う者との交歓のためのものになっています。

歌舞は、元々鎮魂のための作法でした。盆踊りの輪踊りの形は櫓を中心としていますので、神楽や巫女舞の輪踊する所作と同じようなものといつてよいと思います。盆踊りの人たちが恍惚となつていく態が示されています。

今の盆踊りは拡声器やテープの音量を上げて歌いますが、昔は野良や山で鍛えた野太い、よく透る声で歌われたと思います。その肉声こそが、ふるさとの『祭り広場』たる盆踊りの踊り手らの胸に沁み透つたに違いありません。

うきせいこう  
雨奇晴好  
雨のときも晴れのときも、  
それぞれに景色がすぐれて  
いること。



ふよう  
芙蓉

参考文献  
『くらしと祭り百話』小野迪夫(神社新報社)

## 二十四節気

【立秋 りっしゅう】…七日

旧暦七月申の月の正節で、この日から暦の上では秋に入りますが、実際には残暑が厳しく、まだまだ暑い最中です。しかし朝夕はとはなしに秋の気配が感じられます。

【処暑 しよじよ】…二十三日

旧暦七月申の月の中気で、涼風が吹きわたる初秋のころで、暑さもおさまり、収穫の候も目前となります。

## 六曜・選日

《六曜》

【先勝】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし  
【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む  
【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉  
【仏滅】…万事凶、患は長びくおそれあり  
【大安】…何事をするのにも吉日、大吉日  
【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉  
《選日の吉凶》  
【三りんぼう】…三隣亡日、普請始め、棟上大吉  
【一粒万倍日】…出資・投資・購入、新規事業開始  
婚姻は吉、借る、離別凶

## 七十二候《8月》

処暑 初候・綿柎開(わたのはなしへひらく) 綿の実を包む花の蕾(つぼみ)が開き始める。次候・天地始肅(てんちしじふ) 天(かみ)と地(うみ)の暑さが弱まる。末候・禾乃登(こくものすなわちのる) 日に日に稲穂の先が重くなる。

立秋 初候・涼風至(すずかぜいたる) 秋の涼しい風にあたる。次候・寒蟬鳴(ひぐらしなく) 夏の終りを告げるひぐらしの鳴き声はなくなる。末候・蒙霧升降(もくうしやうかう) 深い霧がたちこめる。

いぬ  
安産祈願 8月の戌の日  
4日(火)・16日(日)  
28日(木)

\*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

## 《11日 山の日》

山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日です。

祝祭日には国旗を掲げましょう

「暑中見舞い」  
贈答の習慣が簡略化  
暑中見舞いはもともとお盆の贈答の習慣が簡略化されたものです。かつては、お盆に里帰りする際、祖先の霊に捧げるための物品を持参する習慣がありました。それが、しだいにお世話になった人全般への贈答の習慣になっていきました。  
その際、本来は直接訪問して届けるのが一般的でしたが、やがて簡略化され、手紙ですませるようになったのが、現在の暑中見舞いです。  
暑中見舞いは、二十四節気の小暑(七月七日)から立秋(八月七日)にかけて送るのが通例で、立秋を過ぎたら「残暑見舞い」とします。  
ちなみに、お盆の贈答の習慣は、お中元へと受け継がれています。